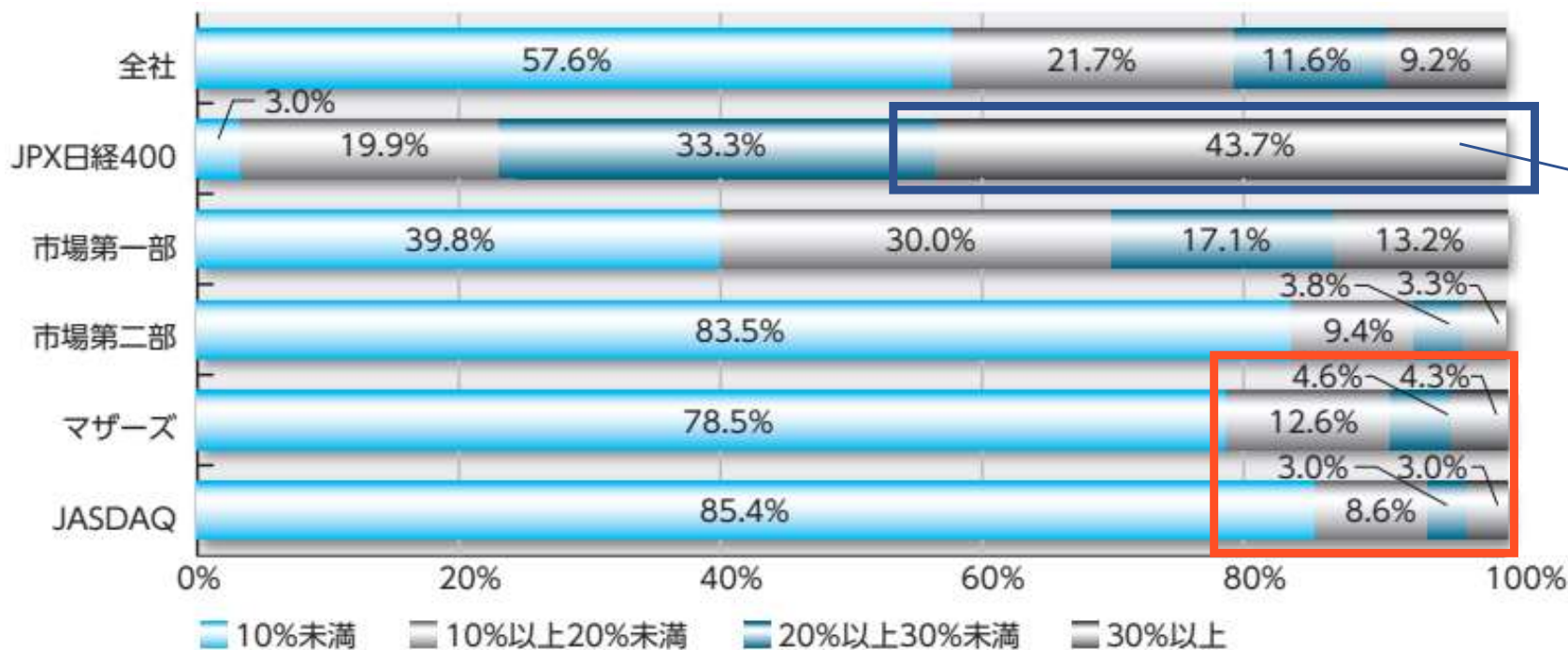


# 図表 8 外国人株式所有比率 (市場区分別)



JPX400レベルになって初めて海外投資家比率が30%以上に。  
**国内の投資家を大切に**  
**にする方が優先**される

### 【IPOの目線】

- IPOの段階で海外の投資家が入ってくるのは稀少。
- IPO時は、海外投資家に持ってもらふことよりも**IPOを無事に成功させる方に集中する**会社が大半。
- まずは小さくIPOしても、企業の成長とIRを通じて海外機関投資家は入ってきてくれるので、着実に進めよう。
- グローバルIPOや旧臨報方式は、IPOディスカウントがあるので海外の機関投資家も参加ハードルが低いと判断してくれるだけでなく、**会社側もロードショーを通じて海外の機関投資家にアプローチできる絶好の機会**(とはいえ、時価総額が小さいと見向きもされないで規模に合わせて検討する必要がある)。
- 海外の機関投資家が多いほど、**英文での開示が必要なので、IPO時点の管理体制で対応できるかは慎重に**判断しよう。

### 【IRの目線】

- 海外投資家は**時価総額300億円**を超えると徐々に入ってくる印象。時価総額もさることながら「**1日の売買金額**」が一定金額ないと入れないので、**流通株式数**も増やす必要がある。
- 海外の投資家の方が意志を持って投資する手法(アクティブ)をする投資家が多いので、「自社の成長可能性」「自社の事業の優位性」を説明することで**長期に投資してもらえる可能性**がある。(⇔国内は指標に連動した投資する手法(パッシブ)の運用する資金が多い。←年金資産等を運用する投資家の金額多いため)
- コロナ禍においては北米投資家との面談のセッティングが難しい。しかし、大切な投資家層なので、多少**無理してでも面談**を行おう。
- JPX400選定基準にCG報告書の英訳がある様に、開示する資料のほぼすべての資料の英訳が必須。